



Nara
Women's
University

Today

編集：奈良女子大学広報委員会

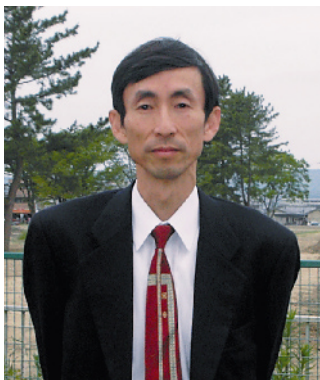
第2号

2004.6.1

「国立大学法人奈良女子大学の設立」と

「奈良女子大学最新の動き」について

—平成16年4月から、全国で89国立大学法人がスタート—



平成16年4月1日、国立大学法人法に基づき、全国で89の国立大学法人及び4つの大学共同利用機関法人が誕生しました。本学も国立大学法人奈良女子大学として新たなスタートを切りました。中期目標・中期計画に従って年度計画を策定し、これに基づいて大学改革を進め、機能強化を図っていきます。本学でもおよそ200項目から成る平成16年度の年度計画を策定し、届出を行うこととしています。

教育面では4年間一貫したキャリア教育の実施、大学院での修業年限の弾力化などによる女性の高度専門職業人・研究者の支援・育成、学生への勉学あるいは生活支援の充実などを掲げ、研究面では基礎研究と応用研究の深化を追究し、「文化・社会・環境・自然」などの諸分野での特色ある研究の重点的な強化を目指します。

社会との連携では地域の女性リーダー育成や産学官連携など現在進めている地域貢献特別支援事業の一層の発展を目指します。

国際交流面では国際交流に関する学内センターを設置し、5女子大学コンソーシアムで行っているアフガニスタン女子教育支援事業などアジア諸国を中心にした教育研究面での国際交流・貢献を進めます。

また、これまで文学部附属であった附属学校園を大学附属とし、附属学校部を設置し大学との連携を強めるとともに、先導的な実践・研究を進めます。

大学全体の管理運営体制としては、法令で定められている役員会、経営協議会、教育研究評議会を設置し(裏面参照)、さらにこれまでの全学の委員会を企画・実施機能を高めるため、教員と事務職員とが連携した「室」組織へと移行し、「教育・学生支援統括室」と「研究企画統括室」を縦系とし、「評価企画室」と「広報企画室」等を横系として相互に連携して企画実施にあたります。優れた女性教員採用の一層の促進も重要な目標です。また、教職員あるいは学内組織の目標・評価・改善サイクルの整備を目指します。

このような様々な目標を掲げ、それらを実施に移すことで、法人化を契機としつつ、大学改革をさらに加速させたいと考えています。



第1回役員会の様子

平成16年6月 学長 久米 健次

大学ホームページがリニューアルされました！！

大学からの情報発信、入試広報の充実などを目的に、昨年度より準備を進めてきた大学ホームページが完成し、平成16年5月よりリニューアルしました。色調やデザインもインパクトのあるものとなり、高度な研究を推進する本学にふさわしい落ち着いたものとなっています。入試広報の充実や、目的者別にカテゴリも設け、幅広い方々に閲覧頂くことを目的にしています。

本誌「Nara Women's University Today」もホームページに掲載しており、広く一般の方に随時ご覧頂くことが可能となっています。是非ご覧ください。

(URL: <http://www.nara-wu.ac.jp/>)



トップページ

国立大学法人奈良女子大学の管理運営組織について

国立大学法人化に伴い、平成16年4月1日から新たな管理運営組織として役員会、経営協議会及び教育研究評議会が設置されました。

●役員会

学長	久米健次
理事(企画・研究担当)	重定南奈子 (奈良女子大学副学長)
理事(教育・学生支援担当)	井上裕正 (奈良女子大学副学長)
理事(管理運営担当)	原克己 (奈良女子大学事務局長)
理事(非常勤)	望月和子 (大阪大学名誉教授)

●監事(2名)

業務監査担当	岡秀松氏 (大阪ガス株式会社参与)
会計監査担当	上野祐子氏 (株式会社マーケティングダイナミクス研究所 代表取締役)

●経営協議会委員(10名)

学長	久米健次
理事(企画・研究担当)	重定南奈子
理事(教育・学生支援担当)	井上裕正
理事(管理運営担当)	原克己
理事(非常勤)	望月和子

(学外有識者(五十音順))

志水義文氏 (大阪地方裁判所民事調停委員、摂南大学法学部 客員教授)

田代和氏 (近畿日本鉄道株式会社相談役)
中津井泉氏 (株式会社リクルート「カレッジマネジメント」編集長)
中西進氏 (京都市立芸術大学長、奈良県立万葉文化館長)
鷲塚泰光氏 (独立行政法人国立博物館理事、奈良国立博物館長)

●教育研究評議会評議員(18名)

学長	久米健次
理事(企画・研究担当)	重定南奈子
理事(教育・学生支援担当)	井上裕正
理事(管理運営担当)	原克己
文学部長	奥村悦三
理学部長	野口誠之
生活環境学部長	西村一朗
人間文化研究科長	矢野重信
附属図書館長	的場輝佳
附属学校部長	水上戴子
教授(文学部選出)	森岡正芳
教授(文学部選出)	出田和久
教授(理学部選出)	池原健二
教授(理学部選出)	富崎松代
教授(生活環境学部選出)	磯田則生
教授(生活環境学部選出)	清水哲郎
教授(人間文化研究科選出)	坂本信幸
教授(人間文化研究科選出)	今井範子

産学官連携の一環として

「奈良女子大学研究紹介集・シーズ集Vol.2」を好評発刊しました

奈良女子大学産学官連携推進室では、先に発行いたしました「奈良女子大学 産学官連携 研究シーズ集 Vol.1」に続いて、このたび「奈良女子大学 研究紹介集・シーズ集 Vol.2」を装いも新たに刊行いたしました。

Vol.2では、本学教員の研究テーマや内容を一目で理解していただけるよう、文章的記述よりも図や写真などを多用して編集しています。本書をご希望の方は、ご送付させていただきますので、産学官連携推進室までご連絡下さい。

本書が地域社会と奈良女子大学の研究との架け橋となりますよう、心より願っております。

(問い合わせ先:研究協力課 TEL:0742-20-3734 URL:
http://www.nara-wu.ac.jp/kenkyou/seeds_vol2/main.html)



「長期履修学生制度」の導入

—大学院人間文化研究科で

平成16年度からスタート—

この制度は、職業を有している等のために、一般の学生に比べて年間に修得できる単位数や研究活動・学習活動への時間数が限られるなどの理由により、標準の修業年限を超えて修了することを希望する学生を対象としているもので、申請に基づき入学定員の範囲内で認定されます。初年度の平成16年度は、博士前期課程7名、博士後期課程8名の計15名が、本制度を利用して研究をスタートさせています。

【職業を有している者等の例】

- ・定職を有する者(アルバイト等は除く。)
- ・育児、長期介護等により、標準の修業年限で修了することが困難な者

長期履修学生として認定された場合の授業料は、標準の修業年限に支払うべき授業料総額を、あらかじめ認められた修業年限で除した額を、それぞれの年(学期)に納入することになり、修業年限が増加することによる金額的な負担を軽減するよう配慮されています。詳しくは、学務課大学院係(Tel: 0742-20-3063 e-mail: daigakuin@cc.nara-wu.ac.jp)までお問い合わせください。奈良女子大学では、女性の多様なライフスタイルに対応した学習機会の提供に、今後も積極的に取り組んでいきたいと考えています。

「在学生と卒業生との集い」を開催

—社団法人佐保会主催—

平成16年5月14日(金)午後4時30分から6時30分まで、E棟261教室において、本学同窓会の社団法人佐保会主催による「在学生と卒業生との集い」が開催されました。会場には70名を超える学生が参加し、満席になるほどの大盛況でした。



パネリストの体験談に熱心に聴き入る会場の様子

パネリストとして、津田 美也子氏(1985年文学部教育学科心理学専攻卒)、橋本 陽江氏(1973年理学部化学科卒)、東 実千代氏(1989年家政学部住居学科卒)の3名を迎え、コーディネーターとして平井 タカネ氏(元文学部長、奈良女子大学名誉教授)の司会のもと、様々な分野で活躍されている卒業生と在学生の交流の場となりました。

学生からは、「学生時代に培って、社会で役立つことは何ですか」などの質問があり、パネリストからは、「今は大変だと思っていることが、過ぎてしまえば良い経験となるので、何事にも積極的に取り組む姿勢が大切です」などの励ましの言葉もありました。

大阪中之島サテライト・キャンパスで入試相談会を実施

平成16年5月15日(土)に、本年4月から「サテライト・キャンパス」として本学大学院博士前期課程の授業を行っているキャンパス・イノベーションセンター(大阪地区)(大阪市北区中之島)を利用して、編入学に関する入試相談会が開催されました。

相談会は、入試内容や入学後の学習に関して個別相談形式で実施され、関東や九州地方など遠方からの参加者も含む計45名の編入学希望者が参加し、終始順番待ちの列ができるほどの盛況ぶりでした。本学では、入試広報活動充実のため、今後も各種学生募集に応じた相談会を全国で実施する予定です。

今回は入試相談会を、交通の便が良い大阪中之島で開催することができました。今後のサテライト・キャンパスの有効活用が期待されます。



参加者の個別相談に応じる本学職員

平成16年春の記念館一般公開

—2,300名を超える来館者で大盛況—

平成16年4月29日(木)から5月5日(水)の7日間、記念館の一般公開が実施されました。今回は、2階ロビーにおいて特別展示「日曜画家ギャラリー～記念館とその周辺～」が同時開催されました。

明治の洋風建築の趣を残す記念館の美しさに惹かれて、多くの方々が建物の前で絵筆を走らせておられるため、このような市民の絵画愛好家の方々が描かれた記念館や大学界隈などの絵画を持ち寄って頂き、モデルとなっている記念館内で展示会を開催したものです。

50点余りの絵画を展示した会場には、7日間で2,300名を超える来館者がありました。地域文化の発展に寄与していくことで、市民に親しまれる「奈良女子大学記念館」でありたいと願っています。

次回の記念館一般公開は平成16年11月1日(月)から11月7日(日)までの7日間の予定です。



記念館2階講堂に展示された絵画を鑑賞する来館者

アフガニスタン女子教育支援

—平成16年冬の女性教員研修報告—

奈良女子大学は、「アフガニスタン女子教育支援のための五女子大学コンソーシアム」(お茶の水女子大学、津田塾大学、東京女子大学、奈良女子大学、日本女子大学)のメンバーとして、平成14年度からアフガニスタンの学校長や大学教員を招いて女性教員リーダー養成のための研修プログラムを実施しております。平成15年度はアフガニスタン女性教員16名を、平成16年2月1日(日)から2月4日(水)まで本学に受け入れ、以下の目的のもとに研修と見学を行いました。

- 1 女性教員が地域において果たす役割に注目する。女性教員や地域における女性が生活環境の改善に対して持つ役割についてのワークショップを行う。
- 2 地域における学校の現状についての認識を深める。東京にはない山村の学校を訪問し、地域に愛される学校づくりについて考える。
- 3 個性的な「総合学習の時間」を展開している附属学校園を訪問する。単独の教科教育の展開とは異なる学際的、統合的、又インターナショナルな教育の取り組みを参観する。
- 4 休日を利用して、世界文化遺産の寺や神社を見学する。時代を超えて日本に根付いた文化に触れ、各国、各地域における伝統文化の継承と発展および平和の意義を考える。



本学記念館前で記念撮影をする参加者と本学関係者

2月1日には東大寺や春日大社を見学し、2月2日から2月4日までは本学を中心に研修が行われました。2月2日には奈良県庁への表敬訪問の後、本学において、県栄養士会名誉会長の久保節子氏により戦後の栄養改善指導と女性の社会的役割についての講義が行われました。2月3日には山村の公立小学校である奈良市立大柳生小学校を訪問し、地域の人達との交流活動を見学、4日には本学附属幼稚園及び附属小学校において、初等教

育における総合学習について見学し、それぞれ意見交換等を行いました。

送別会では、研修員の代表者から、「奈良の美しさ、奈良の人たちのあたたかさ」に感動した。奈良の風土はアフガニスタンに似ていて国外にいるという感じではなく、とても親しみやすかった。ここで学んだ多くのことを、全力を尽くしてアフガニスタンで活かしていきたい。そしてここでの思い出を一生心の中にとどめておきたい。」と4日間の感想が述べられました。

アフガニスタンから奈良に来て

(アフガニスタン・カブール大学からの国費留学生

Deeba Yosufzai Kashmirさん

(大学院人間文化研究科博士前期課程1回生))

来日以来、私は、美しい日本とりわけ歴史ある奈良で、多くの方々を知り合いになりました。彼らは知性に満ち、思いやりがあり、また何事にも全力を尽くされるの方々であることを知りました。



奈良女子大学の先生や事務の方々、私の喜びや苦しみを我が事のごとく理解して下さい、いつも救いの手をさしのべてくれます。また私の所属する情報科学専攻の先生方は、皆一生懸命指導して下さいます。ここで学んだことは、カブール大学の教師として帰国後大いに役立つことでしょう。

日本人は、少食少眠で良く働くこと、また全世界の人々が平和で幸せであってこそ人生はすばらしいのだと考えていることを知って、とても感動しております。(原文英語)

国際交流最新の動き

奈良女子大学では、平成14年3月に「留学生受入れに関する基本方針」を策定し、10年間で100名以上の留学生受入れを目標としましたが、平成16年5月1日現在で113名に達し、当初の目標をわずか2年余りで達成しました。本学の留学生は大半が大学院生であり、高度な研究を目指している学生が多いことが特徴といえます。今後は、留学生の受入れのみならず、日本人学生の諸外国への派遣等を積極的に推進する新たな基本方針を策定し、国際連携及び交流に資することとしています。

